

令和5年度 第1回 上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 令和5年8月7日（月）10時00分から12時00分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、渡邊委員、東谷委員、暁委員、土井委員
- 事務局 松井部長、辻村課長、吉川課長、野崎課長、日高課長補佐、千葉指導主事、
苧木指導主事、岡田指導主事、中本課長、土井課長補佐、梅野主事
- 次 第 開会
案件
 - 1 国際交流事業について
 - 2 フリースクール事業について
 - 3 学校統廃合について閉会

●議事概要

町長挨拶

- ・教育、福祉の政策のあり方によって各自治体の優劣というのが顕著に表され、この2つにどのような特色を出していくのかが問われる時代になってきている。競争ばかりが決して良いことではないが、何もしなければ人口減少に拍車がかかることにもなる。我々は、「できること」「求められていること」について、しっかりと考えを示しながら、実行していく必要があると思う。委員の皆様にもアイデアを出していただきながら、教育行政を進めてきているところであるが、引き続きお力添えをいただきたい。

案件1 国際交流事業について

教育総務課から、国際交流事業について説明

今中町長 ホームステイ先について、受入先がなかった場合はどうするか。

担当課 まずは中学生の子どもがいる家庭を対象に募集を行うが、受入先がなかった場合は、小学生の子どもがいる家庭、小中学生の子どもがいない家庭と対象を広げていく予定をしている。

暁委員 引率の先生は、どこに滞在するか。

担当課 先生3名とツアーガイド1名は、ホテルに滞在する予定である。

今中町長 記念品は、何か用意する予定か。前回、台湾を訪れた際はどうかであったか。

松浦教育長 前は、奈良県の筆と墨等、書道用品を学校へ贈呈している。

- 今中町長 ふるさと納税返礼品となっているような上牧町の特産品を贈れると良いと思う。
- 松浦教育長 台湾の学校には学校のオリジナルグッズ等があるので、そういったものをいただいたが、本町の中学校にそのようなことを求めることは難しいため、ある程度は町で用意する必要がある。その他にも、子どもたちは各家庭からたくさんのもをいただいていた。
- 東谷委員 ホームステイ先にもある程度の規定を設けておかないと、家庭によって差が生まれてしまい、次回の訪問時に負担になる可能性がある。最低限の受入先のルールを決めておく必要があると思う。
- 暁委員 奈良市でホームステイの受入先を探されていたが見つからず、本町まで聞いてこられているような状況がある。受入側としては、多くの不安があるので、「このようにしてほしい」「ここまではしても良い」といったある程度のルールがないと、受け入れる勇気が湧いてこない。また、小中学生のお子様がおられる家庭は、共働きも多く、3日間の受入には相当パワーが必要になってくるのが考えられるので、受入先を見つけるのが難しいのではないかと思う。お子様のいる、いないに関わらず、広く募集するのが良いと思う。
- 松浦教育長 基本的には、学校に在学しているお子様の家庭が一番良いと考えているが、満たない場合については、幅広く募集をかけたいと思う。逆に多くなった場合のことも考えておかなければならない。受入先が決まった後、ホストファミリーとの連絡会を何度か開催し、今心配していただいている部分について、きちんと話をしていきたい。また、入町式の際にも日本語と台湾語の両方で、受入先の心得や台湾の生徒さんの心得等について伝えていきたい。
- 土井委員 受入先のホストファミリーが当日急遽受け入れられなくなることも考えられるので少し多めに考えておいた方が良いと思う。
- 今中町長 緊急時のことも含めたマニュアルを作成して、事前にホストファミリーのかたと打ち合わせができるような形で進めてほしい。
- 渡邊委員 良い機会なので、積極的に中学生には手を挙げてほしいと思う。学力テストで、英語の質問に英語で答えるという問題の正答率が非常に低かった。普段の授業の中で自分の答えをきちんと言えるように訓練しておかないと、外国のかたと話す時に意見が言えない。こういったチャンスを大いに活用してもらいたい。

東谷委員 生徒間の交流も大切になるが、台湾から来られた時に、学校や役場はどう対応するかということを経験しておくのも一つ勉強だと思う。

松浦教育長 入町式の際にこういったセレモニーを行うかも大切だと考えている。単に儀式的なものにするのではなく、「来てよかった」「受け入れて良かった」と感じてもらえるような交流にしたい。町の事業として住民のかたに広く理解してもらえよう、多くの方々にこの入町式に参加をしていただきたいと思う。

東谷委員 今回は受入側であるが、次回は本町が行くことになると思う。そうなれば、金銭的に行けない子が出てくるのが考えられる。そういった子どもたちも事業に参加できるよう、学資金を出すなど何らかの方法を考えてもらいたい。

案件2 フリースクール事業について

教育総務課から、フリースクール事業について説明

渡邊委員 卒業後のサポートについて、全国的に不登校の生徒が受験することのできる指定校が増えてきている。そういった情報をまとめ、子どもたちが自由に閲覧し、情報を得ることのできる環境をつくることで、子ども自身や保護者の安心にもつながるのではないかなと思う。

東谷委員 中学校卒業のサポートのあり方については、上牧町フリースクール設置条例の中に、「義務教育下の児童生徒を対象にする」と謳っていることからすれば、行政としてはそこまで考える必要がなく、割り切って良いと思う。義務教育終了後のことについては、また違う事業でサポートしていくのが良いのではないかな。

フリースクールの目的は、学校へ戻すことではなく、社会的に孤立させないことで、子どもたちが外へ出て、自分自身で自立に向けて学べる環境づくりが大切だと思う。フリースクールで勉強するのも良いが、今の時代、インターネット環境があれば十分一人で勉強していくことができる。今後も様々な議論が出てくると思うが、大きく柔軟な考え方で運営していくのが良いと思う。フリースクールの価値というのは、将来その子がどのように成長していくかを見てみないと分からないし、本当の意味での価値は、結局のところ誰にも分からない。そういう感覚で見えていかないといけないと思う。

資料中の利用状況において、開校当初続けて通っていたAとB（仮名）の出席回数が、C、E、F（仮名）と人数が増えるにつれて減っていく状況が読み取れる。要因は分からないが、長いスパンで分析を行っていく必要がある。出席回

数について、100%が何回か分からないので、出席可能日数を明記してほしい。

担当課 概ね1か月12回～13回が出席可能日数となっている。最初に来ていた子どもたちの出席回数が、出席人数の増加に伴い減っていることについて、子ども同士の相関関係はほぼない。逆に、この子が来たから私も行こうというプラスの要素の方が大きい。

東谷委員 官民連携で立ち上げられたが、委託先のNPOはどこか。

担当課 NPO法人「楽しいまちづくりの会」にお願いしている。

東谷委員 NPOの代表者もスタッフに入っているか。

担当課 代表者は、基本的に業務を行っていない。

東谷委員 NPOの理事等はスタッフになってはいけないという決まりがあるので、その辺の法人関係も把握しておかないといけない。

フリースクールの問題は、子どもたちに起因するものが比較的少なく、別の問題で行き詰まることが多い。教育委員会がきちんと把握して、コントロールしていくことも運営していく上での課題である。それも含めてNPO法人が担ってくれるなら全然問題ないが、最後に責任を持たなければいけないのは行政なので、気をつけて運営する必要がある。

今中町長 現在、スタッフは何名か。

担当課 認定心理士や教員免許を所有している専門スタッフが3名おり、精神的に寄り添ったり、学習指導や生活指導を行ったりしている。その他に運営スタッフも携わっており、その辺りの線引きが曖昧になっているところが課題である。

松浦教育長 委員の皆様がおっしゃっていることはその通りであって、全てが上手く進んでいるわけではない。現状抱えている課題をしっかりと整理をしながら、進めていきたい。

今中町長 子どもたちの居場所をつくっていく中で、全てを上手く進めようとする、無理が生じてくるだろう。意見が食い違ったり、言い合いになったりすることもあるかもしれないが、それを乗り越えながら、しっかりと長く続けていくということが、一番大切だと思う。

案件3 学校統廃合について

教育総務課から、学校統廃合について説明

暁委員

図面の件について、正門から入った1階のフロアに大人が誰もいないことが気になった。1階の玄関から不審者が入って来た時の対応は誰がするのか。2階に職員室があるため、外部からの侵入者があった時に一番近いのが特別支援教室になる。事務室も用務員室も全部反対側にあり、支援が必要な子どもたちに何かあった時、誰が守ってどう逃げさせるのか。この位置は、一番つくってはいけない場所だと思う。通級指導教室や特別支援教室、個別学習室、カウンセリング室を全て1階にまとめる必要があるのか疑問に感じる。保健室についても、グラウンド側ではないので、グラウンドで何かあった場合、どのように対応するのか。2階部分については、図書室が非常に狭く、普通教室程度の広さしかないが、3校が合わさった際に蔵書が全て入るのか。蔵書を置く書庫もないので、図書の入れ替えは、どうするのか。先生方の移動についても、1階の事務室と職員室を行ったり来たりすることになるが大丈夫か。4階にPTAの和室があるが、上牧第三小学校のように1階にある方が良いのではないか。総合的に大人の出入りの位置が安心安全からかけ離れているような気がしてならないと思う。池田小学校の事件後、外部からの侵入者が問題になり、色々と検討されてきた。防ぐ方法として、セキュリティ環境の整備も大事だが、すぐに対応できる大人が近くいることも大切だと思う。最大限に検討していただきたい。

担当課

特別支援教室が1階にあることについては、配慮の必要な子の利便性と動線の確保という部分が多い。先生の動線については、学校と協議の上、調整いただいている部分である。図書室の広さについては、現在の上牧中学校と同程度の広さを想定している。統合後の生徒数が上牧中学校のピーク時より少ないことや、電子書籍に移行していくことから、この広さで対応できると考えている。保健室に関しては、新設のグラウンドがこちらに面する形で整備されるので、この場所を確保している。全体的なセキュリティ面に関して、ある程度はカメラの設置等のセキュリティシステムで防ぐことができるが、抑止力となるような存在については、課題が残るので、学校や設計業者と話を進めていく。

暁委員

机の配置等はこれからだと思うが、新しい図書室は、従来の机が並んでいるだけの図書室でない方が嬉しい。床をカーペットにしたり、座り心地の良い椅子にしたりして、図書室に行って少し本を開いてみようと思えるような環境づくりをしてほしい。

松浦教育長

良いと思う。奈良学園中学校等でも取り入れられている。

東谷委員

エレベーターを設置しているので、無理に特別支援教室を1階にしなくても良いと思う。また、教室の大きさが従来の8×8mではなく、8×9mを採用されたのが良いと思った。階段が3か所に配置されているのも安全面で良いが、外部階段は必要ないのか少し気になった。4階に特別教室を集められたのも良いが、集めることで、使用しない時間帯ができ、子どもたちの行動が見えない部分が出てきてしまうので、防犯カメラの設置をするなどして4階の状態が職員室からでも確認できるような整備が必要だと思う。できることなら1階の給食室は、隣接する場所に配置するのが良いと思う。長期的で大規模なスケジュールについては、達成率と進捗率はつけた方が分かりやすい。令和8年の春開校予定だが、令和9年になるかもしれないと言わずに、今のところは何が何でも令和8年4月に開校するという思いを持って、進めて行ってほしい。